

第3号議案

道路改築事業

国道353号 祖母島～箱島バイパス 渋川市～東吾妻町

着工年度
評価理由

平成19年度
社会的状況の変化

1. 事業の目的

国道353号祖母島～箱島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。また、ハツ場ダムの生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

【上信自動車道全体の効果】

○関越自動車道へのアクセス向上

- ・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮

【約90分 ⇒ 約60分】

○医療機関への搬送時間の短縮

- ・吾妻地域から県央地域の第3次医療機関への60分圏域人口が約1万1千人増加

【約115千人 ⇒ 約126千人】

○ハツ場ダム地域の生活再建を支援

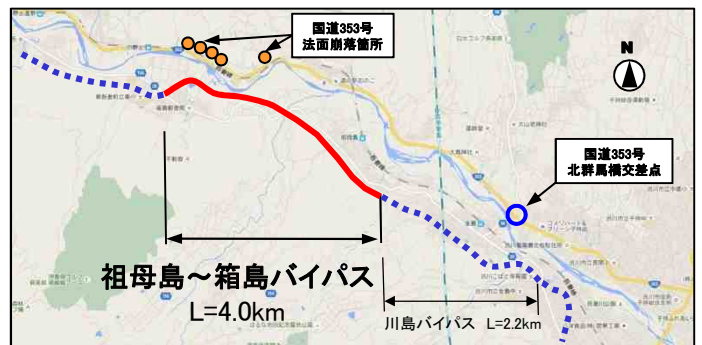
【上信自動車道 祖母島～箱島バイパスの効果】

○国道353号の通行の安全の確保

- ・防災点検要対策箇所5箇所を回避



法面崩落の状況(H15)



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	渋川市祖母島～吾妻郡東吾妻町箱島	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	9,100百万円	9,100百万円
全体事業費増減の理由		
事業期間	H19～H31	H19～H29
事業内容	道路延長 4,000m 幅員 10.5m	道路延長 4,000m 幅員 10.5m

事業経緯

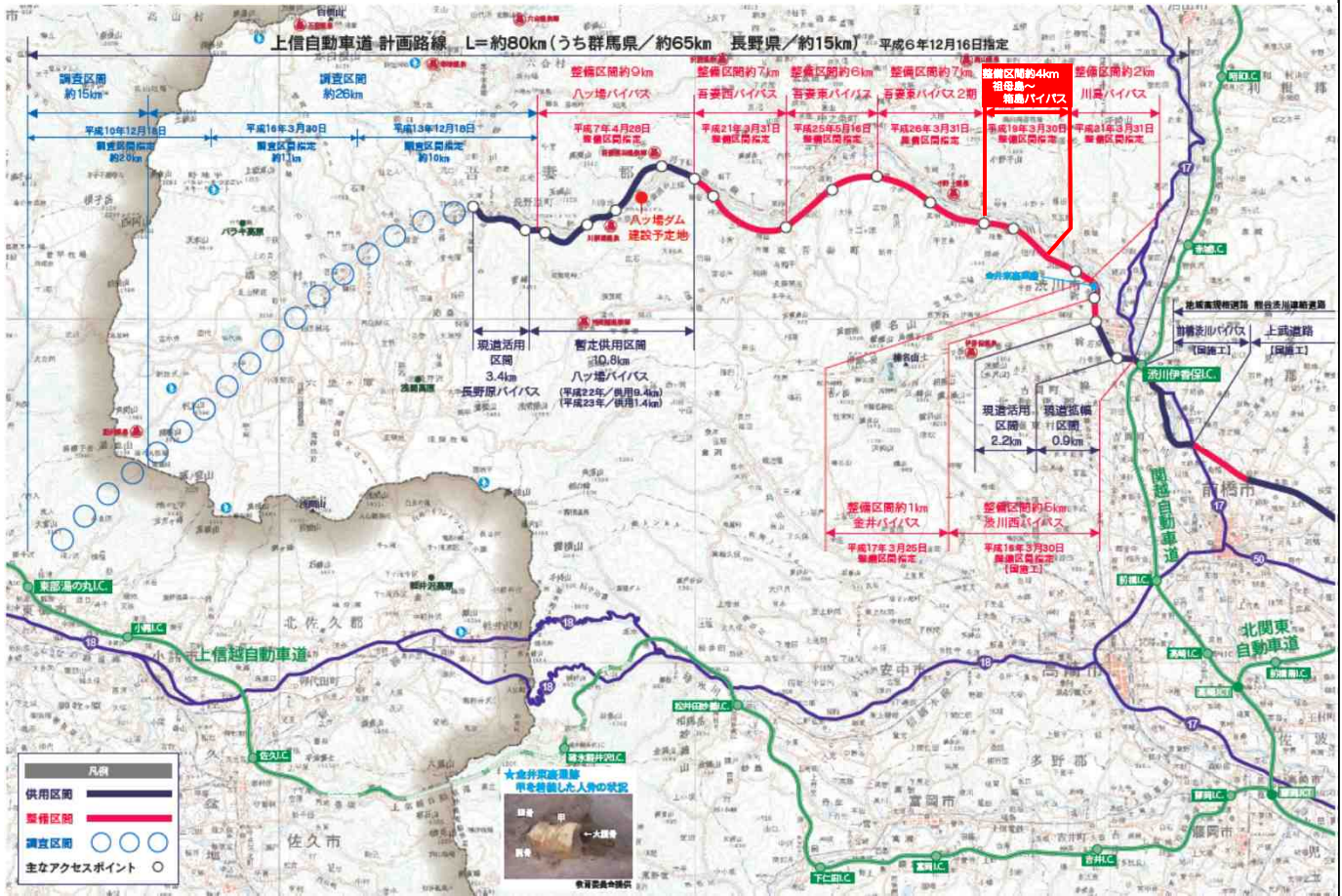
年度	主な経緯
H19	事業着手
H23	用地買収着手
H24	工事着手

進捗状況

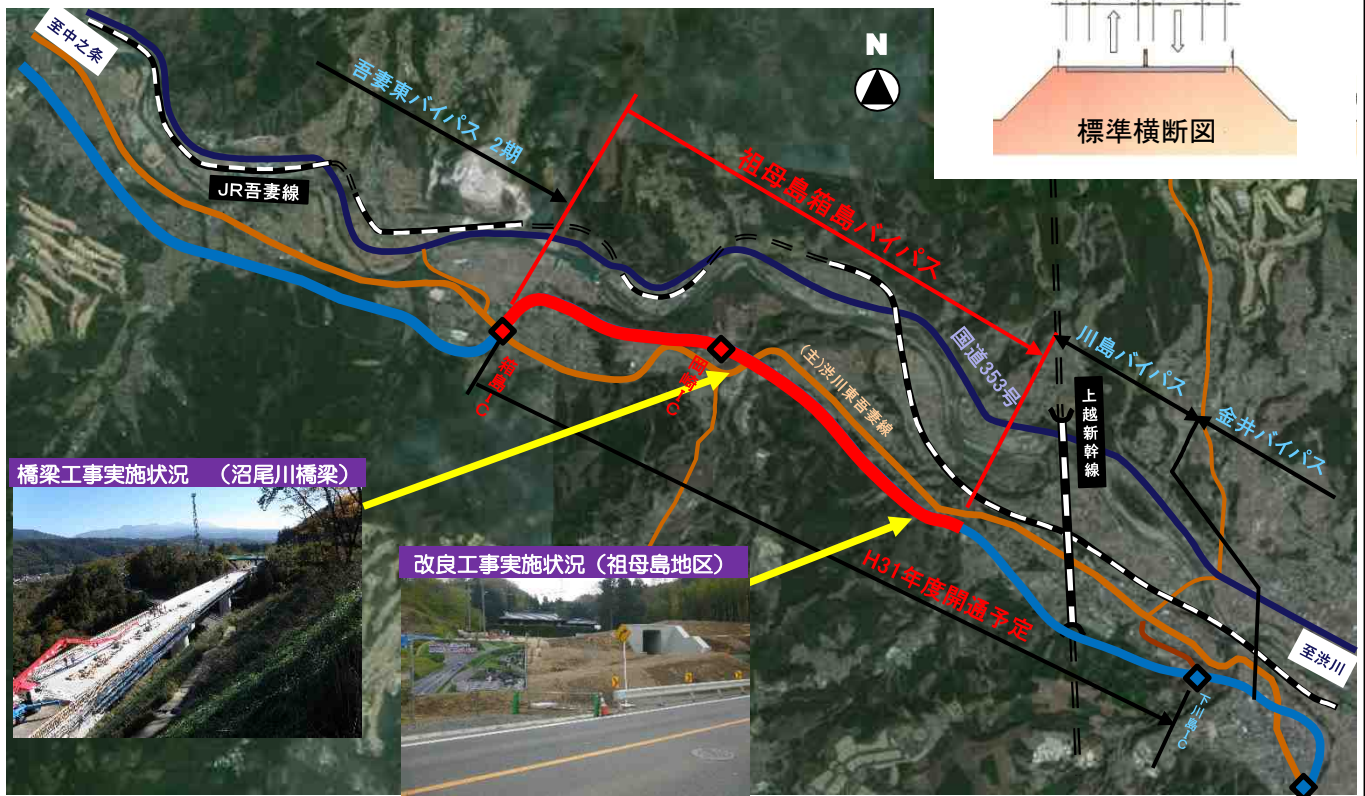
	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	9,100百万円	4,923百万円 (54.1%)	709百万円 (7.8%)
用地買収	139,117㎡	129,034㎡ (92.8%)	0㎡ (0.0%)
計画延長	4,000m	0m (0.0%)	0m (0.0%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

地域高規格道路「上信自動車道」



祖母島～箱島バイパス



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

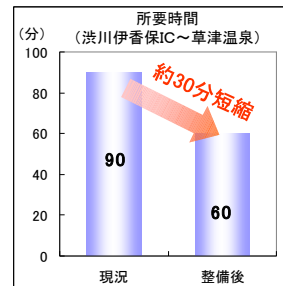
- ・吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の活性化や、中核的医療施設への搬送時間短縮が望まれており、事業の目的・必要性に変化はない。
- ・国道353号(渋川市村上)では、過去に大規模な崩落の発生、道路防災点検要対策箇所5箇所が存在しており、この代替機能を確保する必要性は依然として高い。



国道353号の崩落事故発生状況



中核的医療施設への60分圏域



渋川伊香保IC～草津温泉アクセス時間

4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- ・本事業に並行する国道353号沿線は、急峻な崖と吾妻川に挟まれた区間が多く、過去には大規模な崩落も発生していることから、災害緊急時における代替機能を確保できるバイパス整備が有効である。また、本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速交通網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路であり、一連区間で整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。このため、目的を達成する事業として適当であると考えられる。

費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成23年		平成27年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	8,004,000	95.9%	9,270,000	95.8%		
	維持管理費	343,000	4.1%	406,000	4.2%		
費用合計(C)		8,347,000		9,676,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	15,886,000	159.4%	15,796,000	96.5%	道路ネットワークの変更による 将来計画ネットワーク (前回) ↓ 事業化ネットワーク (今回)	
	交通事故減少便益	497,000	5.0%	11,000	0.1%		
	走行経費減少便益	-6,417,000	-64.4%	566,000	3.4%		
便益合計(B)		9,966,000		16,373,000			
費用対効果分析(B/C)		1.19		1.69			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画

不測の事態により長期化】

【元々が長期計画の理由】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長L=4.0km、全体事業費91億円と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画となっている。

【不測の事態により長期化した理由】

・一部地権者との用地交渉が難航し理解が得られていないことから遅れが生じており、土地収用法に基づく取得手続きを進めているところであるが、2年間の不測の期間を要する見込みである。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

国道353号祖母島～箱島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハツ場ダム你的生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道353号(渋川市村上)は、道路防災点検要対策箇所5箇所が存在しており、緊急時の代替機能を確保する必要性は高く、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況は変わっていない。

事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画についての同意が得られたことから、平成23年度に用意買収に着手し、平成24年度から改良工事に着手した。

用地取得の状況は93%となっているが、一部地権者と交渉が難航し理解が得られていないことから、任意交渉と合わせて土地収用法の手続きを進め、平成31年度の開通を目指して事業を推進している。

整備推進にあたっては、施工に長期間を要する構造物の先行着手や効率的な施工手順となるよう施工計画を見直し、工事期間の短縮に努めている。

以上から本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考えます。